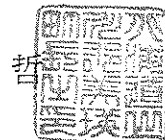


美 政 調 第 2029 号

平成 20 年 10 月 6 日

国土交通省道路局長 殿

北海道上川郡美瑛町長 浜 田



(政策調整室 係)

件 名 今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

このことについて、別紙のとおり回答致しますので、宜しく
お取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

北海道

美瑛町

- ・道路整備は、国、都道府県、市町村のいずれにとっても、国民の経済活動や社会生活にとって大切な社会資本整備である。これから迎える少子高齢化社会において、道路行政もその対策が重要課題であり、その対策は長期的、中期的に先を見据えた計画と実行が必要である。
- ・国の道路網の骨格をなす高規格道路・地域高規格道路・国道、地域広域圏を結ぶ道々、生活道路としての市町村道が補完しあう道路計画及び整備が重要である。
- ・少子高齢化を迎え、地域格差が広がる中、地域生活を支える道路計画及び整備が重要。
- ・地域高規格道路については、整備区間への早期昇格と路線線形決定については地方自治体の意見を反映していただきたい。
- ・国道452号など着手済道路の早期完成、開通を要望します。

今後の道路行政についての意見・提案
②ー１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道 美瑛町

○現状	○課題
・本町の道路整備は、昭和４０年代後半から本格的に始まり、建設後、３０年以上が経過した路線、橋梁等の構造物が多くなっている。 ・少子化により小学校の廃校が進み、通学はスクールバスに転換されている。 ・高齢化社会を迎える中、地域医療機関と中核都市の高度医療の連携を深める必要がある。 ・本町の観光は、典型的な夏季通過型観光の形態であり、近年は、国内に限らず韓国、台湾、中国等東南アジアからの観光客が増加している。旅行形態も団体旅行から個人、家族旅行へと転換しつつある。 ・公共土木事業費の減少による土木事業者への対応（異業種への参入など）が求められ、また、基幹産業である農業における後継者不足、遊休農地の増加、価格低迷が問題化している。	・長寿命化を計るため、維持補修費をいかに捻出するかが課題であり、新たな補助制度、交付制度の検討を願いたい。 ・教育において、地域格差を造らないための道路整備が必要である。 ・医療における地域格差を造らないための道路整備が必要である。 ・夏、冬共により安全な通行が可能な道路整備が必要である。 ・農業所得の向上策をいかに確立するか。 この達成により、後継者の確保、新規就農者の増加、遊休農地の減少、土木事業者の農業への参入などが可能となる。 本町のようない自治体においては、農業所得の増加が町内の商工業にも好影響を及ぼす。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー2 地域を目指すべき将来像

北海道 美瑛町

・食料基地として、農産物の物流を確保し、食の安全、安心を発信できる地域づくりとそれを支える地域基盤としての道路網の確立。

・地域住民が安全で安心な暮らしを営むことのできる地域づくり
産業、食料、住居、医療等すべてにおいて道路は重要ファクターである。

・国内外からの観光交流人口の形態が変化しつつある中で、より安全な道路網の確保。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・広域活力の向上	・国道237号の拡幅整備（4車線化） 旭川神楽から富良野までの拡幅工事の延伸 ・旭川空港と美瑛・富良野を結ぶ広域道路 ・国道452号整備事業	・国道は、近隣市町村にとって、産業、経済、生活の大動脈である。拡幅により、特に観光シーズンの交通量の増加による渋滞が大きく緩和される。 この経済効果には大きなものがある。 ・富良野・旭川間の国道を使用することなくルートを設定し、国道の渋滞緩和、物流の安定確保が可能となる。 十勝岳噴火災害における国道の代替ルートとしての位置付けも可能である。 ・旧産炭地域と旭川空港・中核都市である旭川市が結ばれ、産業、医療、観光においてトリックタイムの短縮が大きな経済効果を生む。	北海道 美瑛町